

第19回

日本へリコバクター学会学術集会

平成25年6月28日(金)

当院における自費診療によるピロリ菌 外来の現状と保険適応拡大後のあり方

赤心堂病院 外科

桂田 純二郎、松本力雄

目的

当院における自費診療でのピロリ菌診療を開始後、1年以上を経過した。これまでの患者背景や安全性、治療成績について検討した。

また、保険適応拡大に伴い、自由診療でのピロリ菌診療の今後のあり方についても検討した。

方法

2011年10月17日より、自由診療でのピロリ菌外来を開設し、文書での説明と同意を取得し行っている。

第18回日本ヘリコバクター学会学術集会で経過を報告したが、その後に再検討をした。

2013年2月よりヘリコバクター・ピロリ感染胃炎が保険適応となり、今後の自由診療のあり方についても、検討した。

① 感染診断、除菌薬、除菌判定

- 感染診断：抗H. pylori抗体（血液）、便中H. pylori抗原
- 除菌薬：
エソメプラゾール＋アモキシシリン＋メトロニダゾール
- 除菌判定：尿素呼気試験

② 診療料金

感染診断のみ：8,000円

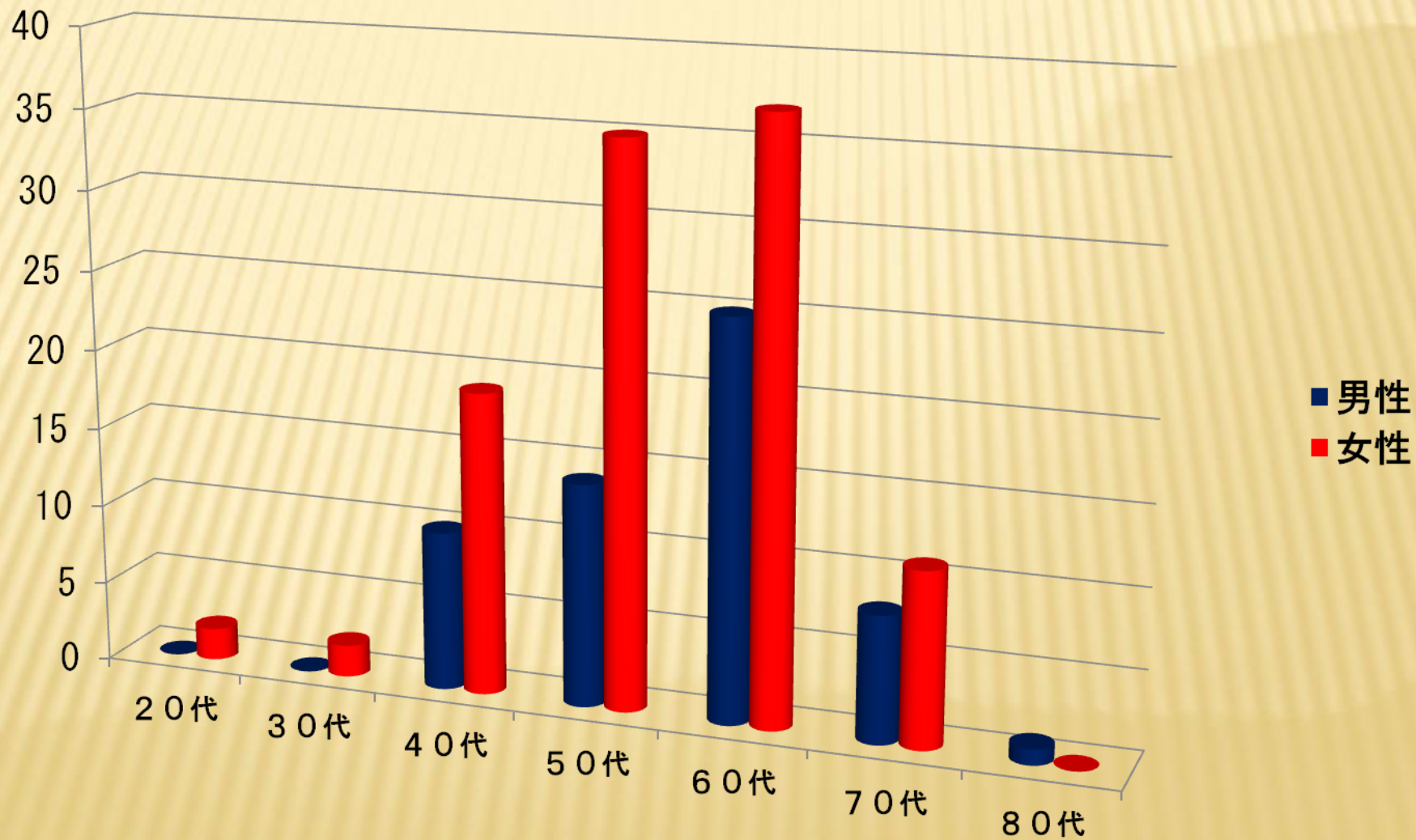
除菌と除菌判定：17,000円

感染診断から除菌判定まで：21,000円

結果

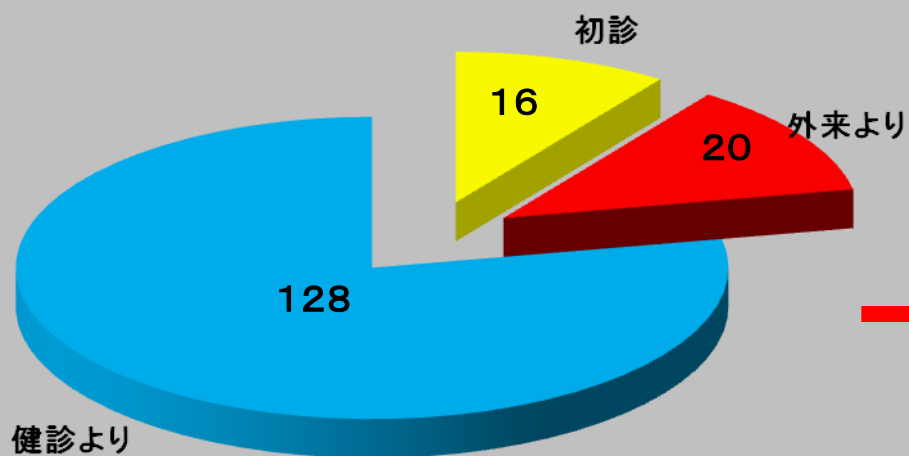
ピロリ菌外来を開設した2011年10月17日から2013年4月31日まで164名が受診した。年齢は25～87歳で、平均年齢は56.4歳であった。男性は57名、女性は107名であった。健診でピロリ菌陽性と診断され、受診される割合が多かった。除菌は153名に行われ、成功は151名、失敗は2名であり、除菌率は98.7%であった。

年齡・性別



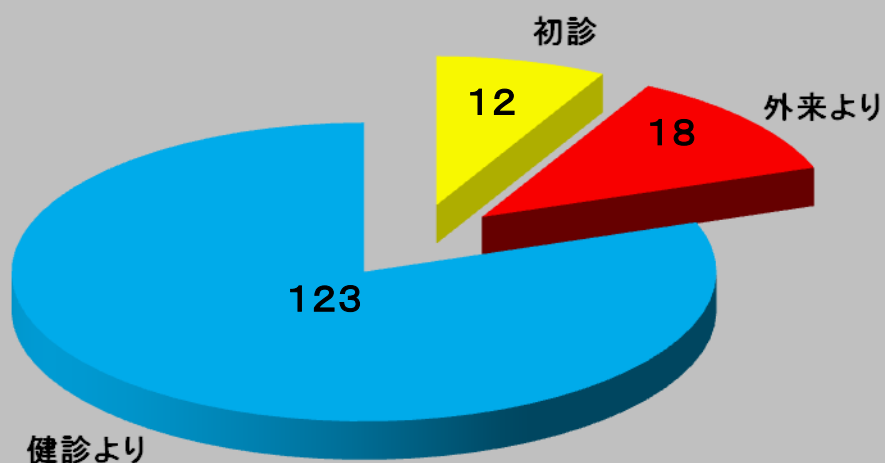
受診状況と除菌療法施行者

受診者数(名)



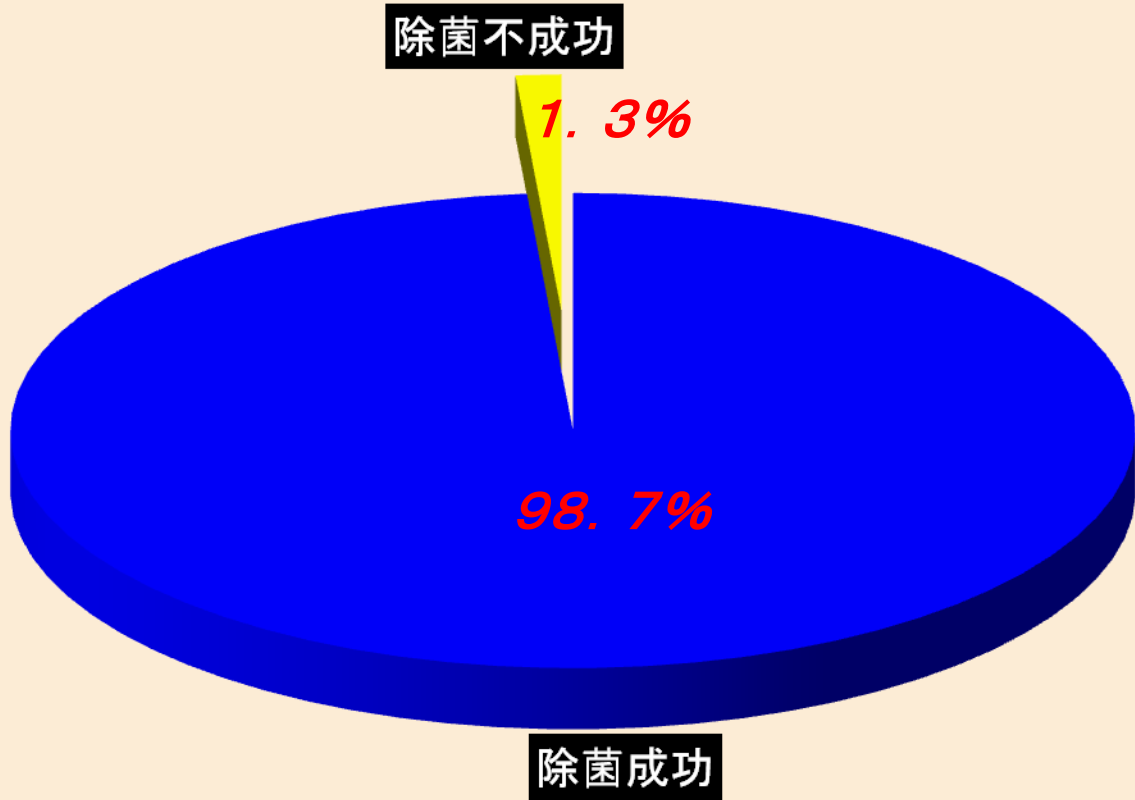
合計 164名

除菌療法施行者数(名)



合計 153名

除菌率



副作用

- 下痢・軟便：10名（約6.5%）
 - 服薬期間中の下痢：3名（自然軽快）
 - 服薬終了後の下痢：3名
（2名が整腸剤で軽快、1名は点滴加療をした）
 - 軟便：4名（自然軽快）
- 発疹：5名（約3.3%）、いずれも軽症

保険適応拡大後の変化

2013年2月22日より、ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎が保険適応となった。

健診でピロリ菌陽性と判定され、除菌希望で受診される方がほとんどであった。上部消化管内視鏡検査や除菌療法の保険適応に関して十分に説明するようにした。

しかし、除菌は希望するが上部消化管内視鏡検査は希望しないという方や自由診療での除菌を希望する方で、十分に説明し同意がえられた場合は、自由診療での除菌療法を検討するべきと考えている。

結語

エソメプラゾールを用いた除菌療法は、比較的
安全に行われ、高い除菌率をえられた。

自由診療外来のあり方は、今後も検討して
いく必要があると考えられた。

H. Pylori eradication therapy including
esomeprazole is a high eradication rate.
It is necessary to examine the uninsured
H. pylori eradication in our hospital.